

労働戦『統一』をめぐる大流動

日刊 動労千葉

1988.8.2
No.866

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七・二〇七

戦争への道「右翼労働戦」「統一」を許すな！

七月二十九日、総評大会が終了した。「むかし軍隊、いま総評」という異名を誇り、戦後労働運動、平和と民主主義をにかけてきた総評は、今回の大会で「来秋解散」を決定し、労資協調の「全民労連」へと吸収・合併しようとしている。しかし、その「全民労連派」の策動が果たしてうまくいくのか。すでに、都労連、都高教、沖縄高教組、千葉県高教組などが、全民労連不参加を決定し、国労、自治労、日教組などをめぐってたたかう現場組合員の怒りは爆発しはじめ、「総評民間単産三二のうち『連合』不参加は十五ある」（毎日新聞7/25）と、労働戦線は大流動化しはじめ、労働運動の戦国時代へと突入せざるを得ない状況なのだ。

何を目的にした、

誰のための労働「統一」か

全労働者の敵「革マル・鉄道労連」も加入する全民労連（略称「連合」）は、昨年十一月政府自民党に「歓迎」されて発足した。その多くの幹部たちは、「労使協調」路線をとり、資本家と共に労働者の上に立ち、労働者の不満と怒りを抑えこんできた連中である。その「労使協調」をとってきた自動車、鉄鋼、造船などの労働者は、ドル暴落、円高危機のもとで大合理化と大量出向、首切りの嵐にたたきこまれていくが、それと対決し、労働組合がたたかたなどということは一切聞かれな

主的な労働運動」とは、資本主義を全面的に認めるものであり、「左右の全体主義を排し、イデオロギーの排除」とは反対派勢力の一掃なのである。

労働「統一」問題が浮上するのは、戦争体制づくりむけた時代におこる

つまり、今日の全民労連路線とは、資本主義体制の危機、日帝の危機のなかで、その危機を救うために「結成」されたものであり、労働者のためにつくられたものでは断じてない。「全民労連」のかかげる「労使対等の原則に立った自由で、民

そもそも、労働統一問題が浮上してくるのは、戦争体制にむけた時代、戦時体制時に起こりうる第一次大戦前、第二次大戦前に各国帝国主義のなかで問題になっている。ドイツでは一九三三年、ナチス独裁のもとで政党、労働組合がいっしょに「統一」されていった。日本では、天皇制のもとに「挙国一致」体制で「産業報国会」が作られ、政党は「大政翼賛会」へと改変されている。今日、日帝竹下政権のもとで、戦争国家化に向けた攻撃の一環として労働「統一」の狙いがあるのである。

国労組合員

出向命令は不当

JRに撤回促す

県地労委が救済命令



【破れた設備で「1日も早く職場に復帰したい」と話す秋野さん（中央）＝千葉市の弁護士会館で】

国鉄千葉動力車労働組合（国鉄千葉労組）は、国鉄千葉労組から出向命令を出された秋野さん（中央）と千葉市の弁護士会館で記者会見した。秋野さんは、国鉄千葉労組から出向命令を出されたことをめぐって、千葉県の労働委員会（県地労委）に救済命令を出してほしいと訴えている。秋野さんは、国鉄千葉労組から出向命令を出されたのは、国鉄千葉労組の設備が破れたためとされているが、実際には、国鉄千葉労組の設備が破れたのではなく、国鉄千葉労組の設備が破れたためとされている。秋野さんは、国鉄千葉労組から出向命令を出されたことをめぐって、千葉県の労働委員会（県地労委）に救済命令を出してほしいと訴えている。

強制出向に

救済命令

（千葉地労委）

この結果、国鉄千葉労組は、国鉄千葉労組から出向命令を出された秋野さん（中央）と千葉市の弁護士会館で記者会見した。秋野さんは、国鉄千葉労組から出向命令を出されたことをめぐって、千葉県の労働委員会（県地労委）に救済命令を出してほしいと訴えている。秋野さんは、国鉄千葉労組から出向命令を出されたのは、国鉄千葉労組の設備が破れたためとされているが、実際には、国鉄千葉労組の設備が破れたのではなく、国鉄千葉労組の設備が破れたためとされている。秋野さんは、国鉄千葉労組から出向命令を出されたことをめぐって、千葉県の労働委員会（県地労委）に救済命令を出してほしいと訴えている。

<7/29>
千葉日報